

# 学校清掃の実態と実施者の意識

—全国の18歳から70歳代までの600名, および  
兵庫県の小学生80名を対象としたアンケートを元に—

表 真 美  
(教育学科)

学校清掃の実態と実施者の意識について明らかにするために、全国の18歳から70歳代までの600名、および兵庫県の80名の小学生を対象としたアンケートを実施した。その結果、「全国調査」では、学校掃除には教育的意味が「あった」とする者が「なかった」を大きく上回り、学校清掃を業者に任せることに反対する意見が多く、賛成の場合は「学習に時間を充てた方が良い」などの理由がみられた。また、児童・生徒の保護者の多くは、自身の子どもに対する学校清掃の指導を望んでいた。「小学生調査」では、1年生は他の学年と比較して有意に「掃除はなるべくさぼりたい」「掃除はしんどい」を肯定する割合が高かった。また、家庭で掃除をしている児童は「学校での掃除をできるだけさぼりたい」と答える割合が低かった。

キーワード：学校清掃, 意識調査, 全国調査, 小学生

## 1. 問題の背景と目的

### (1) 学校清掃の歴史

学制以前では、寺子屋の掟書、また大正期に全国の寺子屋に在籍した経験を持つものを対象とした調査から、一部で寺子による掃除が行われていたことが明らかとなった<sup>1)</sup>。

明治6年文部省の指図に従って東京師範学校が作成した「小学校教師の心得」には、学校を清潔に保つのは教師の義務とされていたが、就学児童の拡大と、それに見合う清掃要員を雇用しえない学校財政の貧困さにより学校清掃が始まった<sup>2)</sup>。明治中期には感染症の蔓延から「学校衛生」の重要性が高まり、学校清掃に影響を及ぼした<sup>3)</sup>。明治39年に出された「学校清潔法」に関する文部次官通牒には、学校現場では児童・生徒が掃除をすることが前提として述べられていた。そのような中、大正2年、香川県知事が自身の娘の小学校入学直前に児童による学校清掃を禁止したことをきっかけに、児童に学校掃除をさせることの是非が新聞や教育雑誌を舞台に議論された。学校側は「勤労の精神や訓練」という面において児童による掃除は教育効果があるとした一方、医師会は衛生面重視により反対した。掃除夫を雇う経費負担という背

景もあったとされる<sup>4)</sup>。

昭和33年の小・中学校学習指導要領の「総則」および「道徳」には「教室内外の整とんや美化」「身のまわりを整理・整とん、環境の美化」に言及したが、「児童生徒による学校清掃」の明確な位置づけはなかった<sup>5)</sup>。

### (2) 学校清掃の学習指導要領への位置づけ

児童生徒による学校清掃が学習指導要領に明示されたのは、平成20年のことである。平成10年告示小学校学習指導要領「特別活動」4領域の1つ、「学級活動」に含まれる「日常生活や学習への適応及び健康安全」は6項目だったが、平成20年には「清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」の1項目が加えられ7項目となった<sup>6)</sup>。平成29年告示の学習指導要領では、「一人一人のキャリア形成と自己実現」の「社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」として、「清掃などの当番活動や係活動等の自己の役割を自覚して協働することの意義を理解し、社会の一員として役割を果たすために必要となることについて主体的に考えて行動すること。」との記述が見られる<sup>7)</sup>。

小学校学習指導要領解説特別活動編におい

て、清掃活動は当番活動の他、委員会活動（環境美化）、勤労生産・奉仕の行事（校内美化活動、地域社会の清掃活動、公共施設等の清掃活動）として挙げられている<sup>8)</sup>。

多くの中・高等学校でも学校清掃が日常化しているが、学習指導要領には明記されていない。しかし、文科省が作成した「学校環境衛生管理マニュアル」の「大掃除」の項目には、「清掃については、児童生徒等により日常的に行われるものであるが、定期的で大掃除を行い、日常できない部分まで清掃を行う。」（下線は筆者による）とあり、児童・生徒による学校清掃を自明のこととしている<sup>9)</sup>。

### (3) 特別活動への国際的注目と国内での学校清掃への批判

近年、日本の「特別活動」が諸外国で取り入れられ、学校清掃を含む様々な活動が実践され成果をあげていることが報道されている<sup>10)</sup>。また、最近公開された、日本の公立小学校を舞台にしたドキュメンタリー映画は、諸外国で反響を呼び、特に、学校清掃や給食の配膳などが注目された<sup>11)</sup>。

一方国内では、学校清掃は、規律を重んじる児童・生徒への管理教育であり、清掃活動を「心を磨く」といった言葉にすり替えて、労働を児童・生徒に強制しているといった批判がある。憲法学者の木村草太は対談の中で、学校掃除が「苦役からの自由」（憲法18条）に反する恐れがあると述べている<sup>12)</sup>。また、「無言清掃」がマスメディアでとりあげるようになってから、学校清掃への批判はさらに広がりを見せている<sup>13)</sup>。無言で学校清掃を行うことは「コミュニケーションの機会を奪う」との批判もある<sup>14)</sup>。

### (4) 無言清掃を実践する学校の訪問調査

一方で、学校清掃を教育の主眼とする小・中学校は少なくなく、例えば、福岡市教育委員会 は、平成21年に策定した「新しいふくおかの教育計画」の中で「福岡スタンダード（あいさつ・掃除、自学、立志）」を掲げた。これを推

進するキャラクターとして、雑巾を左手に持つ「スタンダード」が誕生し、現在も福岡市の教育推進キャラクターとしての役割を担っている<sup>15)</sup>。

これまで、無言清掃を実践する学校を訪問調査した研究によると、異なる地方において多様な形で無言清掃が行われていることが明らかとなった<sup>16), 17)</sup>。歴史的に継続して実施している例（愛媛県）、「自問教育」という理念に基づいて実践する例（長野県）、「教師のモデリング」を重視し、教師が率先して実践する例（福岡県）、清掃方法が詳細にマニュアル化され、「師弟同行」の理念で教師が熱心に指導し、近隣の学校にも影響を及ぼす例（埼玉県）、学校長がリーダーシップをとり進める例（石川県）、進学校において学業プラスアルファの生活面を指導するために始まった例（岡山県）がみられた。中学校では、実践が始まったきっかけが、生徒の「荒れ」に対する生活指導、生徒指導と結びつく傾向があった。

### (5) 研究の目的

学校清掃は、歴史的に自明のこととして児童・生徒が中心となり行われきた。批判がある一方で、熱心に指導する学校も存在する。これからの学校教育において、学校清掃の在り方について検討すべき段階に来ている。現在清掃を行っている児童・生徒や保護者、以前清掃していた人々が、どの様に取り組み、どの様な考えを持っているか、これまで明らかにされてこなかった。本報告では、全国の幅広い年齢層の一般男女を対象とした調査、及び児童への調査を実施した結果から、学校清掃の実態と学校清掃に対する意識について明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

### (1) 全国調査

#### 1) 調査方法

2024年2月22日～28日に、調査業者によるweb調査を実施した。業者に登録しているモニター（全国（石川県を除く）の18～79歳）

4,858名に調査を依頼（メールを配信）したところ、867名が調査に回答、調査回答者のうち267名の回答をデータクリーニング時に削除（自由記述設問などを参照）、600名を有効回答とした。尚、全国6地区、性別、年齢層の必要人数をランダムに抽出した。

## 2) 調査内容

質問項目は以下のとおりである。①小学校・中学校時代、学校で掃除をした頻度、②小学校と中学校の学校掃除ではどちらの印象が強いのか、③掃除の時間が、好きだったか、④掃除の時間はまじめに掃除をしていたか、⑤掃除の仕方について先生に指導を受けたか、⑥黙って掃除をする指導を受けたか、⑦掃除のあと、きれいになっているかの先生の確認・評価があったか、⑧学校掃除について当時どのように感じていたか、⑨学校掃除に教育的意味があったと思うか、「あった」との回答者はその理由について、⑩学校掃除を「掃除業者」に任せることについての意見とその理由（記述）、⑪小・中学生の子どもの学校は、掃除についてどのように指導しているか、⑫子どもの学校掃除の指導についての意見、その理由（記述）。

## 3) 調査対象者の概況

600名の調査対象者は、女性300名・男性300名、18歳から29歳、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代が各100名であった。

居住地域は、北海道6%、東北8%、関東16%、北陸（石川県を除く）14%、中部14%、近畿14%、中国9.3%、四国4.3%、九州14%であった。

職業は、会社員がもっとも多く、次いで専業主婦、パート・アルバイト（フリーター）であった（図1）。また、学歴は大学卒がもっとも多く、次いで高校、専門学校・短大であった（図2）。

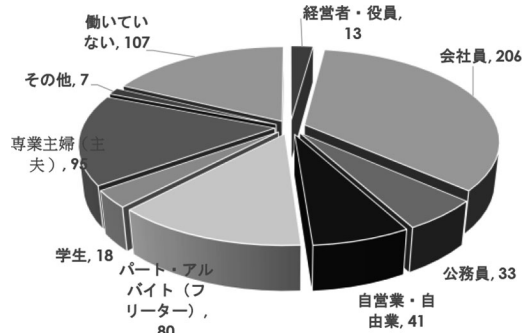


図1 調査対象者の職業

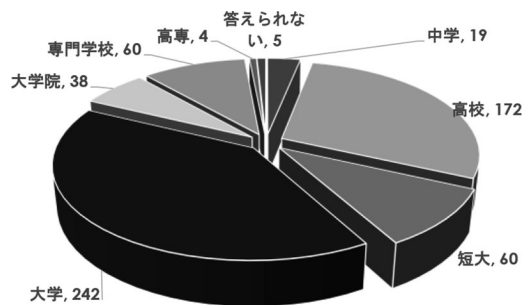


図2 調査対象者の学歴

## (2) 小学生調査

### 1) 調査方法と調査項目

2023年8月の夏休み、兵庫県内の学童保育所において、小学生80名を対象に、質問紙調査を実施した。調査項目は①掃除の頻度、②掃除の時間は好きか、③まじめに掃除をしているか、⑤先生から受ける指導、⑥掃除をした時の気持ち⑦家庭での掃除をしているか、⑧している場合、その場所であった。

### 2) 調査対象者

調査対象者は、1年生21名（25.8%）、2年生28名（35%）、3年生16名（20%）、4年生9名（11.2%）、5年生4名（5%）、6年生2名（2.5%）だった。男女比は男子42名（52.5%）、女子38名（47.5%）だった。参加者全員が毎日学校の清掃活動を行っていた。

## (3) 倫理審査

本研究は、京都女子大学臨床研究倫理審査委員会の審査を受け、承認された（受付番号：

2023-33-変更1)。

#### (4) 調査結果の分析

得られたデータはIBMSPSSを用いて単純集計、分析を行った。また、自由回答については、KHコーダーによって頻出語を抽出、共起ネットワークにより、出現語の頻度と関係を視覚化した。

### 3. 研究結果と考察

#### 1. 全国調査

##### (1) 小学校・中学校時代の学校掃除

###### 1) 学校清掃の頻度

「あなたは、小学校・中学校時代、学校で掃除をしましたか」の質問には、両校種とも7割以上が「毎日した」と回答（小：77.2%，中：70.5%），次いで週2～1日が多かった（小：11.7%，中：17.2%）。「しなかった」という回答もわずかであるが見られた（小：2.2%，中：3.3%）。中学校よりも、小学校の頻度が高い傾向にあった（図3）。また、74.5%が小学校の清掃の印象が強い（中学校：25.5%）と回答し、以降は、印象の強い学校での清掃について回答を求めた。

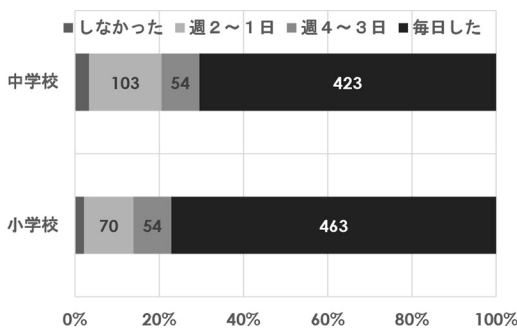


図3 小・中学校時代の学校清掃

カイニ乗検定により、地域、性別、年代差を分析したところ、学校掃除の頻度は、地域、年齢による差が認められた。北海道は他の地域よりも、週2～1日と回答する割合が有意に高く（ $P < 0.001$ ），女性の方が男性よりも「毎日した」と回答する割合が有意に高かった（小学校

$P < 0.001$ ，中学校 $P = 0.002$ ）。北海道は寒冷地のため、掃除の頻度が低い可能性、また、後述のように女性は男性よりもまじめに掃除していたため頻度の回答も高くなったと考えられる。

###### 2) 学校清掃への取り組み

「掃除の時間が好きだったか」との質問には、「大好き」1.2%、「好き」10.7%、「嫌い」26.7%、「大嫌い」7.5%、「好きでも嫌いでもない」53.8%との回答であった。また、「掃除の時間はまじめに掃除をしていたか」との質問には、「まじめにしていた」74.8%、「あまりまじめにしていなかった」21.6%、「まじめにしていなかった」3.6%であった。多く人が学校清掃を義務として捉え、取り組んでいたことがうかがえる。

カイニ乗検定により地域、性別、年代差を分析したところ、18歳から20歳代は学校掃除の時間が「好きだった」と回答する割合が高かった（ $P = 0.005$ ）。また、女性の方が「まじめにしていた」と回答する割合が高かった（ $P < 0.001$ ）。

###### 3) 学校清掃への指導

学校清掃への指導に関して、「掃除の仕方について、先生に指導を受けましたか」との質問には、「受けた」44.6%、「受けていない」55.4%、「黙って掃除をする指導を受けましたか」には、「受けた」48.5%、「受けていない」51.5%、「掃除のあと、きれいになっているか、先生の確認・評価がありましたか」には「あった」36.3%、「ない」63.7%であった。黙って掃除をする指導に関して約半数があると回答したのは、現在実践されているいわゆる「無言清掃」だけではなく、清掃中の私語を慎む指導も含むと考えられる。清掃後の教師による評価は少なかったものの、半数弱が清掃に関して教師の指導を受けていたことがわかった。

###### 4) 学校清掃に対する気持ち

学校清掃について当時どのように感じていた

か尋ねたところ、56%が「掃除をしたらすっきりする」と思ったものの、半数以上が「疲れる」とし、4割近くが「なるべくさぼりたい」と思ったと回答した。「楽しい」と思ったものは、約2割であった(図4)。

18歳から30歳代は「掃除はなるべくさぼりたい」と思ったと回答する割合が高くなった(P=0.022)。若い年代は、「すきだった」と回答する一方で「さぼりたい」とも答えた。まだ記憶に残っているこの年代は、良い思い出とともに悪い思い出双方が強いかもしれない。

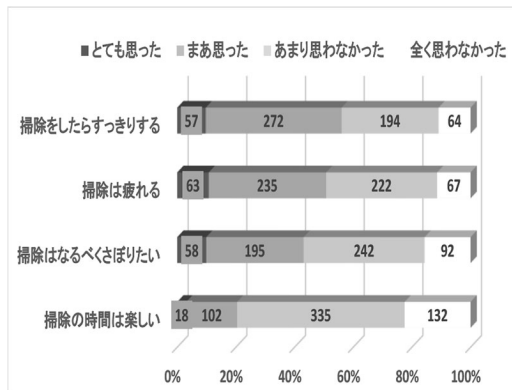


図4 学校清掃に対する気持ち (n=587)

### 5) 学校清掃の教育的意味

「学校清掃に教育的意味があったか」との質問には、半数以上が教育的意味を認め、「あった」54.9%、「ない」11.9%、「わからない」33.2%の回答であった。また、「教育的意味があった」と回答したものに対し、具体的な教育的意味について複数回答で尋ねたところ、「清潔に対する態度・習慣の育成」が87.6%で最も多く、次いで、「公共心・協調心の育成」73.9%であった(図5)。

カイニ乗検定により、地域、性別、年代差を分析したところ、70歳代は学校掃除に「教育的意味があった」と回答する割合が高く、18歳代から40歳代は「教育的意味があった」と思わない割合が、50歳以上よりも高かった(P<0.001)。

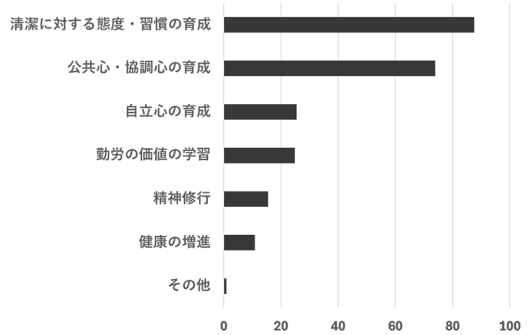


図5 学校清掃の教育的意味 (n=322)

### (2) 学校清掃を業者に任せることについて

学校清掃を業者に任せることの是非について尋ねたところ、「賛成」35.8%、「反対」64.2%であった。どちらも、その理由を記述式で尋ねた。

カイニ乗検定により、地域、性別、年代差を分析したところ、18歳から30歳代は「学校掃除を業者に任せることに賛成」と回答する割合が高く、50歳代と70歳代は「反対」と回答する割合が高かった(p<0.001)。前述のように、年代が高い方が、掃除に教育的意味を感じているためと考えられる。

#### 1) 業者に任せることに賛成の理由(記述)

学校清掃を業者に任せることに賛成の理由には215名が回答した。上位「掃除」(76件)、「思う」(56件)を除くと、「時間」(42件)が最も多く、次いで「業者」(34件)、「任せる」(23件)であった(図6)。

「時間」の語を含む具体的な回答を見ると、回答の多くは「時間を有効活用できそうだから」といったものだった。活用方法として「勉強」「学習」「授業」が多く、他に「早く帰宅させることができる」「先生や、生徒も時間に余裕ができる」「時間の使い方が広がる」などの回答も見られた。「業者」に関しては、「専門業者に依頼した方が綺麗にしてもらえるから」といった回答が多く、他に「安全」「衛生的」などの理由があった。また、「月一度」「トイレ」「大がかりなところ」「長期休暇中の大掃除」「窓掃除」「手の届かないところの掃除」など、

一部を業者に任せるとよい、との意見も見られた。「任せる」の語は「業者」とセットで使われていた。また、「教育」(12件)の語がどのような使われ方をしているのか確認したところ、約半数が「掃除に教育的意味はない」と回答していた。



図6 賛成理由の頻出語 (n=215)

2) 業者に任せることに反対の理由 (記述)

業者に任せることに「反対」の理由には、385名が回答した。頻出語は上位「自分」(252件)、「掃除」(187件)、「思う」(124件)を除くと、「使う」(79件)が最も多く、次いで「きれい・綺麗」(39件)、「習慣」(37件)となった(図7)。

「使う」「きれい・綺麗」の語を含む具体的な回答を見ると、回答の多くは「自分たちが使う場所や物は自分たちできれいにするのは当然だと思うから」との意見だった。他には、「使わせていただいているという精神が必要」「掃除をする事で、教室をきれいに使おうと思える」「自分たちで掃除をすることで将来、公共の場や自宅などで極力汚さないように綺麗に使うことの重要性を学べるから」といった教育的効果に言及する意見、また、「(業者に任せると)税金が使われ費用負担が増すから」といった金銭面の意見も見られた。

「習慣」の語を含む具体的な回答を見ると、「掃除の習慣を身に付ける」といった回答が多く、「良い」「大切」だけでなく、掃除の習慣により「将来本人が一人暮らしをしたり親元を離れた時に身の回りを清潔に保つこと・健康的に過ごすことに繋がる」「心を綺麗にする・物を大事に扱うことにも繋がり道徳の意味もある」といった意見も見られた。

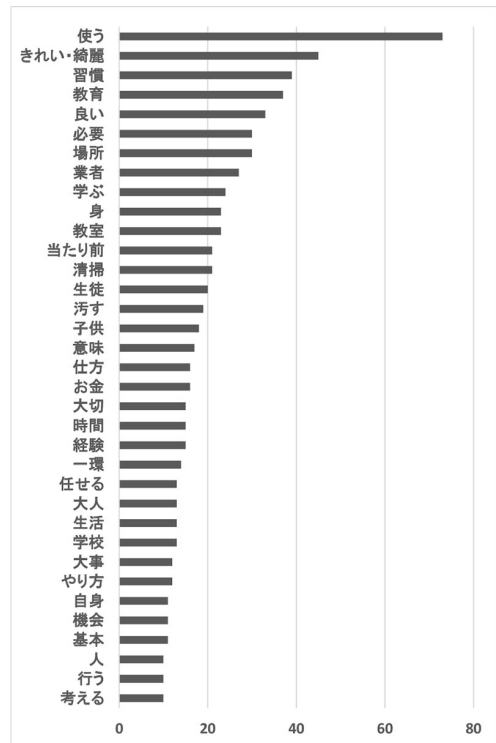


図7 反対理由の頻出語 (n=385)

(3) 自身の子どもの学校掃除の指導

1) 子どもが通う学校での指導

回答者のうち、小・中学生の子どもを持つ対象者が59名いた。59名に自身の子どもの学校清掃について尋ねた。

自身の子どもの通う学校はどのような清掃の指導を行っているかとの質問には、「わからない」との回答が28.8%だったものの、「無言清掃」「無言ではないがしっかりとした指導」が合わせて45.8%であり、全国的にしっかりと指導している学校が少なくないことがわかった(図8)。「無言清掃」が行われている学校の保護者も7名回答していた。

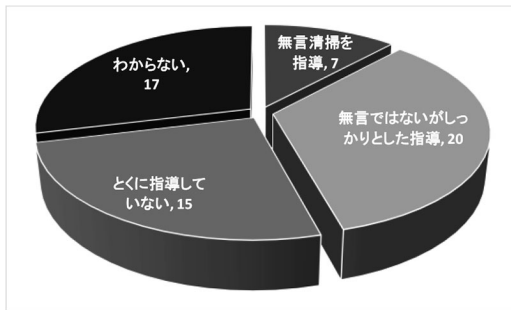


図8 自身の子どもの学校清掃の指導 (n=59)

2) 子どもに対する指導の希望とその理由

自身の子どもに対する清掃の指導については、「しっかりと指導して欲しい」「指導して欲しい」合わせて90%に上った。回答者数は多くないが、保護者は学校の学校清掃を肯定的に受け止めていることが示唆された(図9)。

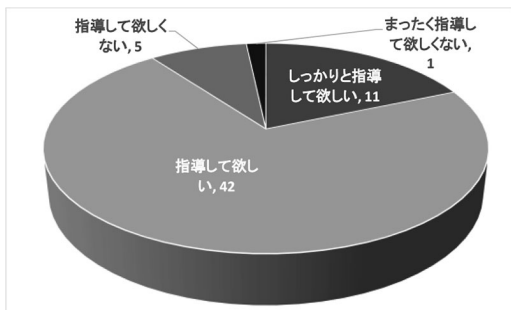


図9 自身の子どもに対する清掃の指導 (n=59)

記述によりその理由を尋ねたところ、「指導して欲しい」の理由としては、「清掃を通じて奉仕活動への意識を育ててほしい」「基本的な生活習慣なので」「掃除に対する意識を高めることが、自律にもつながると思っているので」「友だちと協力して掃除をする協調性を身に付けてほしい」と清掃の教育的効果について述べていた。他にも、「学校以外でも出来るようになってほしい」「専門の業者を招いて正式な清掃のやり方を教えてほしい」などが見られた。

また、「指導して欲しくない」の理由として「なぜ掃除するのかわかっていない。真面目にする子とそうではない子が不公平である」「やらされている感じになるから」「意義を感じないから」などであった。「とても厳しい先生がいるそうで、私からしてみたら生徒に八つ当たりをしているとしか感じられないので」と、具体的な学校での指導を批判する記述もあった。

(4) 学校清掃に対する意見

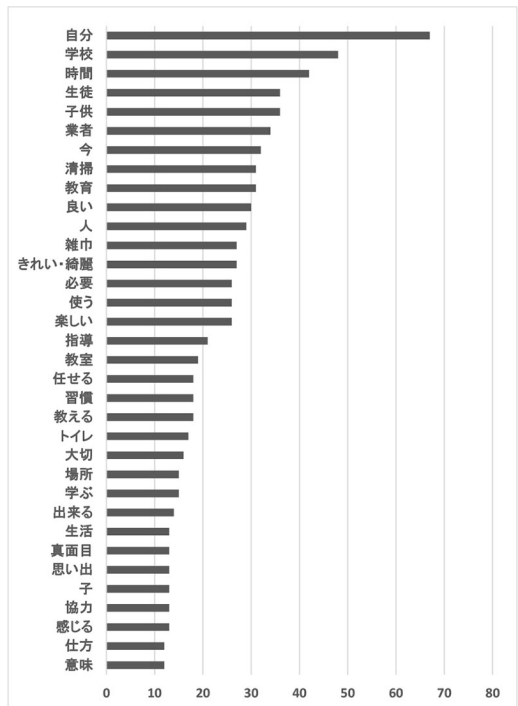


図10 自由回答の頻出語 (n=600)

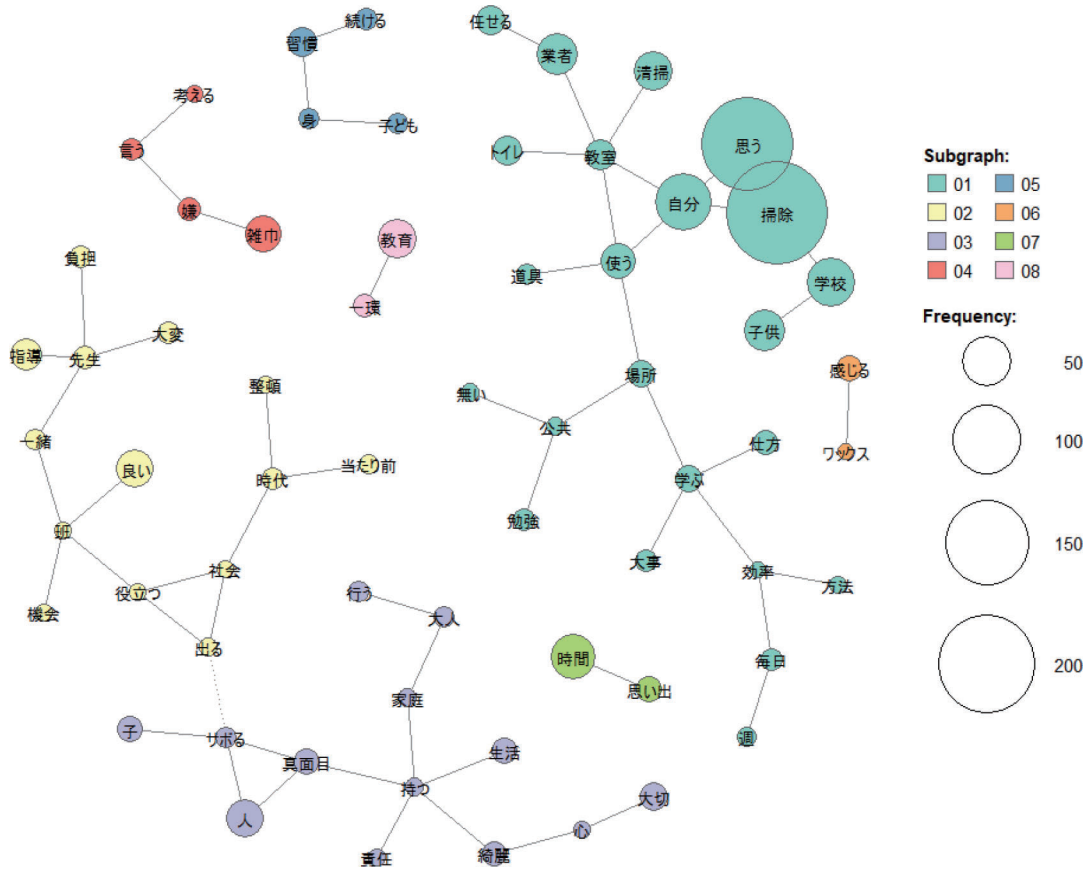


図11 自由回答の共起ネットワーク

最後に「学校での掃除について、どんなことでもご意見をお聞かせください。」として記述回答を求めた。上位「掃除」(220件)、「思う」(179件)を除くと、「自分」(67件)が最も多く、次いで「学校」(48件)、「時間」(42件)、「子供」(36件)、「生徒」(36件)、「業者」(34件)と続いた(図10)。

共起ネットワークには、8つのカテゴリーが析出された(図11)。01の「自分」「掃除」「思う」を含むカテゴリーは「自分が汚した場所は自分で掃除する」、自分ですることは「大切」「大変さがわかる」「汚さないようになる」といった意見が多かった。02の「良い」「指導」「社会」を含むカテゴリーは、「先生も大変だと思います」「指導する先生の負担がかかりすぎるならそこだけ外注にしても良いと思います」「役割分担を決めることは社会に出たとき役立つ

つと思っている」「もっと時代に合った方法にしたらよいと思う」などの回答が見られた。03の「人」「真面目」「綺麗」などを含むカテゴリーは、「サボる子と真面目な子が別れる」「今の子供達は家庭での仕事をあまりしないと思う」「物を大切にすることが養われた」などの回答が見られた。04の「雑巾」を含むカテゴリーは、「雑巾がけが大変だった」「入社した若い子が雑巾絞れなかった。踏んで水を切っていた」などの回答が見られた。05の「習慣」を含むカテゴリーは、「掃除習慣はいいことだと思う」「掃除は大切で、親としても習慣づいてほしいので続けて欲しい」などの回答が見られた。06は「ワックスがけは特別なイベントに感じた」などの回答が見られた。07の「時間」は、「小学校の掃除の時間はよい思い出です」「貴重な時間」「楽しい時間」との意見がある一方、「無

駄な時間」「勉強の時間にあてた方が有効だと思ふ」との意見もあり賛否両論だった。08は「教育の一環」とする回答が8件見られた。

以上、自身の小・中学校時代の思い出、掃除の教育的意味に対する考え方など、多種多様な意見が寄せられた。学校清掃に強く反対の意見があるものの、肯定する意見の方が多かった。

#### 4. 小学生調査

##### (1) 日々の学校清掃

掃除の時間は「好きでも嫌いでもない」児童が約半数、半数以上が「まじめに掃除している」と回答した。9割が掃除の仕方について「先生に習った」と回答したが、掃除後の見回りや評価はあまりされていなかった(表1)。

表1 児童の日々の学校清掃

- ① 掃除の時間：好き20名(25%)、嫌い9名(7.5%)、大嫌い14名(17.5%)、好きでも嫌いでもない79名(48.8%)
- ② まじめに掃除をしていたか：まじめにしている52名(65%)、あまりまじめにしていない26名(32.5%)
- ③ 掃除の仕方について：先生から習った71名(88.8%)、習ってない7名(8.8%)
- ④ 掃除の後先生が見回るか：見回る21名(26.3%)、見回らない58名(72.5%)
- ⑤ 掃除が綺麗にできていると先生に：褒められる25名(31.3%)、褒められない53名(66.2%)

##### (2) 学校清掃に対する気持ち

学校清掃についてどう思うか尋ねたところ、70%が「掃除をしたらすっきりする」と思ったものの、52.5%が「しんどい」とし、35.1%近くが「なるべくさぼりたい」と思ったと回答した(図12)。全国調査より「楽しい」と回答した割合が半数以上と高くなった。前述のように、掃除の後、先生が見回することは少なく、現在の方が厳しい指導がされなくなっていると考えられる。

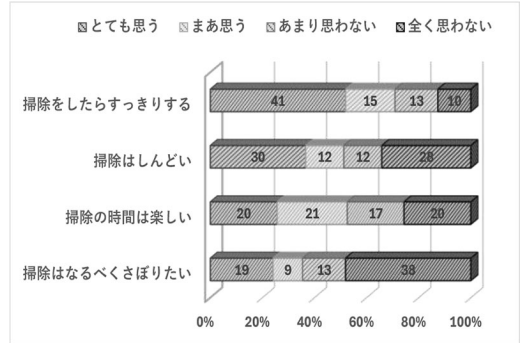


図12 学校清掃に対する気持ち

##### (3) 家庭での掃除

児童に「おうちのそうじ」の頻度を訪ねたところ、「毎日する」4名(5%)、「週4~3日」12名(15%)、「週2~1日」34名(42.5%)、「しない」26名(32.5%)だった。児童が家庭で掃除をする場所は、最も多かったのはリビング、次いで自分の部屋・玄関だった(図13)。また、「家庭で一番掃除をする人」は、母親が68.8%、父親16.3%だった。

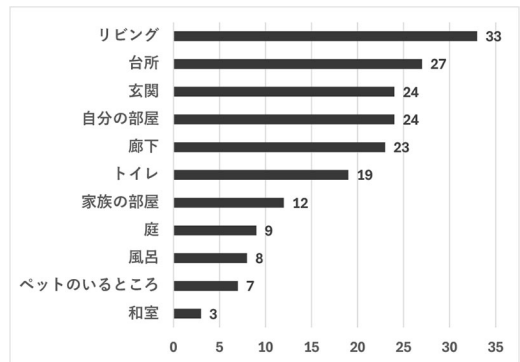


図13 児童が家庭で掃除している場所

##### (3) 学年による差

カイニ乗検定により、児童の学校清掃の実態、清掃に対する気持ちの学年の差を分析したところ、「掃除が好きか」「まじめに掃除をしているか」「掃除はしんどい」「掃除の時間は楽しい」「掃除はなるべくさぼりたい」に有意な学年差が認められた。その中で、1年生の7割が「掃除はしんどい」に「とても思う」と回答(図14)( $P=0.005$ )、5割以上が「掃除はな

るべくさぼりたい」に「とても思う」と回答し(図15) ( $P=0.003$ ), 他の学年を大きく上回った。1年生は学校清掃を負担に感じていることが明らかとなった。前述のように, 先生から「掃除の仕方について習っている」児童が多いが, 掃除の必要性や意義を丁寧に説明し, 強制にならないよう, 自主的な取り組みを進める十分な指導が必要であろう。

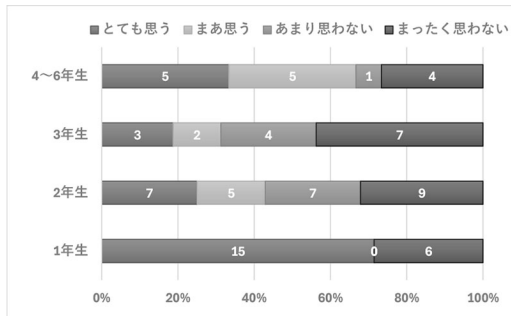


図14 学年別「掃除はしんどい」

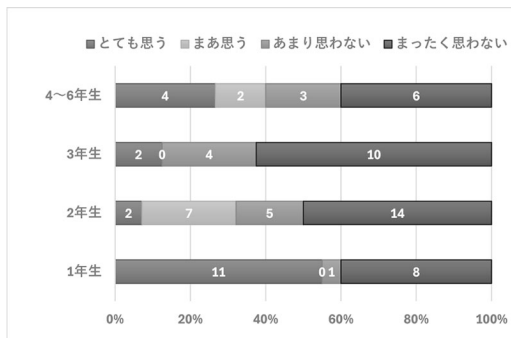


図15 学年別「掃除はなるべくさぼりたい」

#### (4) 学校清掃と家庭での清掃との関連

家庭で掃除をするグループとしないグループに分け, カイニ乗検定を用いて学校清掃との関連を分析したところ, 「しない」グループは, 「さぼりたい」と「とても思う」割合が有意に高くなり, 「しない」グループの割合は「する」グループの2倍以上であった ( $P=0.040$ ) (図16)。

前述の「全国調査」では, 「清潔に対する態度・習慣の育成」に教育的意味があるという意見が多かった。家庭と学校の清掃に関連がある

ことが明らかとなり, 「習慣の育成」が行われていることが示唆された。

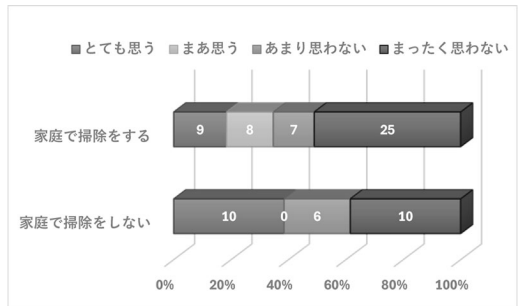


図16 家庭での掃除の有無別「掃除はなるべくさぼりたい」

#### 5. まとめと今後の課題

学校清掃の実態と実施者の意識について明らかにするために, 全国の18歳から70歳代までの600名, および兵庫県の80名の小学生を対象としたアンケートを実施した。「全国調査」では, 学校掃除には教育的意味が「あった」とする意見が「なかった」を大きく上回り, 学校清掃を業者に任せることに反対する意見が多かった。また, 児童・生徒の保護者は, 自身の子どもに対する学校清掃の指導を望んでいた。「小学生調査」では, 1年生は, 他の学年と比較して有意に「掃除はしんどい」「できるだけ掃除をさぼりたい」との意見が多く見られた。また, 家庭で掃除をしていない児童は, 「掃除はなるべくさぼりたい」と答える割合がしている児童の倍以上であった。

今回の「全国調査」では, 掃除の時間を学習に割いた方が良いという理由を中心とした, 学校清掃に反対の意見があった。しかし概ね教育的意義が認められ, 引き続き, 児童・生徒が学校を掃除すべきとの意見が多かった。「小学生調査」では, 児童による掃除の習慣化が示唆された一方, 1年生は学校清掃を負担に思う児童の割合が高かった。

自身の子どもに「学校清掃を指導して欲しくない」と回答した保護者の一人は, その理由として「とても厳しい先生がいるそうで, 私から

してみたら生徒に八つ当たりをしているとしか感じられないので」と訴えた。難しいことではあるが、厳しく強制することは避け、丁寧に清掃の意義を説明し、児童・生徒が自主的に取り組むことが出来るような指導が重要である。

小学校学習指導要領第2章第8節家庭には「B衣食住の生活(6)ア(イ)住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできること。」との内容があり、整理・整頓や清掃の意義について学んでいる。今後も学校清掃を続けるのであれば、入学時、年度初めなどの節目に、家庭科で学ぶような清掃の必要性を児童・生徒に考えさせるような、丁寧な指導をすることが必要であろう。

今後は、学校清掃の教育的意味について、さらに客観的に明らかにしていきたい。

## 文献

- 1) 石井均(1978)「学校掃除の歴史」『学校掃除その人間形成的役割』学事出版, 93-123
- 2) 岩田高明(2018)「明治初期の私塾における掃除の分析」『児童教育研究』27, 29-35
- 3) 石井均(1976)「明治以降の小・中学校における学校掃除の研究」『広島大学教育学部紀要第一部』25, 49-59
- 4) 浅見美之(2010)「近代以降における学校掃除の一考察—大正期における学校掃除議論をめぐって—」『上越社会研究』25, 31-40
- 5) 前掲書6)
- 6) 文部科学省(2008)「第6章特別活動 第2各活動・学校行事の目標及び内容 学級活動2内容 共通事項 (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」『小学校学習指導要領』
- 7) 文部科学省(2017)「第6章特別活動 第2各活動・学校行事の目標及び内容 学級活動2内容 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」184
- 8) 文部科学省(2017)「第3章各活動・学校行事の目標及び内容 第2節児童会活動 3児童会活動の指導計画 (6) 児童会の計画や運営と活動の形態 (イ) 委員会活動 「第4節学校行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事 ①勤労生産・奉仕的行事のねらいと内容」『小学校学習指導要領解説特別活動編』
- 9) 文部科学省(2018)「第Ⅱ章学校衛生基準 第3学校の清潔, ネズミ, 衛生害虫等及び教室等の備品の管理に係る学校環境衛生基準 1学校の清潔 (1) 大掃除の実施」『学校環境衛生管理マニュアル 学校衛生基準の理論と実践 平成30年度改訂版』, 106
- 10) JICA独立行政法人国際協機構ホームページヨルダンの学校で広がる日本の特別活動(特活)の意外な効果とは(2024年5月21日配信, 2025年10月31日入手) [https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/information/topics/2024/1538691\\_52753.html](https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/information/topics/2024/1538691_52753.html)
- 11) キネマ旬報HP「世界で大反響!日本の小学校を追ったドキュメンタリー「小学校~それは小さな社会~」(2024年9月30日配信, 2025年10月31日入手) <https://www.kinejun.com/article/view/42308>
- 12) ハフポストHP「「運動会の巨大ピラミッドに拍手する日本人の人権意識はおかしい」憲法学者・木村草太さんに聞く“子どもの守り方”」(2019年1月19日配信, 2025年10月31日入手) [https://www.huffingtonpost.jp/2019/01/16/sota-kimura-interview\\_a\\_23643888/](https://www.huffingtonpost.jp/2019/01/16/sota-kimura-interview_a_23643888/)
- 13) 西日本新聞HP「学校のハテナ(1)掃除 なぜ黙々とするの」(2017年5月9日配信, 2025年10月31日入手) <https://www.nishinippon.co.jp/item/n/327076/>
- 14) 苫野一徳(2019)「「無言清掃」「無言給食」?」『ほんとうの道徳』トランスビュー, 138-141
- 15) 福岡市教育委員会HP「福岡市の教育推進キャラクター「スタンバード」と「フレンドシープ」」(2025年4月1日配信, 2025年10月31日入手)
- 16) 表真美(2023)「学校清掃と生徒指導:「無言清掃」を実践する中学校3校への訪問調査から」『京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要』36, 1-20
- 17) 表真美(2022)「学校清掃の現状と課題:黙って掃除を行う指導に注目して」『京都女子大学教職支援センター研究紀要』4, 9-16

## 謝辞

本研究にご協力いただいた全国の方々、兵庫県の小学生、また、兵庫県の学童保育指導員の先生に厚く感謝いたします。

## 付記

本研究は科研費基盤研究(C)(代表者:表真美, 22K02190)による研究である。